

日本色彩学会研究会紹介 Introduction of Special Interest Groups of CSAJ

画像色彩研究会

Special Interest Group on Color in Image (sig-Cl)

<https://color-science.jp/image/labnews/>

主査 鈴木卓治 (国立歴史民俗博物館)

〈e-mail〉 suzuki@rekihaku.ac.jp

“画像の色彩”に係わる問題に、積極的に取り組む研究会です。2003年発足

◆ 2024 年度活動報告

- 2024年4月29日(土)にアートツアー「マティス展」(於国立新美術館)を実施しました。展覧会鑑賞(17:30-19:00), ディスカッション(館内にて, 19:00-20:00). 参加者8名.
- 2024年11月30日(土)に開催された合同研究発表会(令和6年度秋の研究会大会行事)に参画しました。研究会会員から発表2件. セッション1座長担当(主査).
- 2025年3月22日(土)に研究発表会を実施しました。Zoomによるオンライン形式. 研究発表4件.

◆ 2025 年度活動計画

- 研究発表会を実施します(1~3月の予定).
- 研究会大会の合同研究発表会に参画します.
- その他、対面あるいはオンラインによる研究会企画を実施したいと考えています.

環境色彩研究会

Special Interest Group on Environmental Color

<https://color-science.jp/environment/labnews/>

主査 萩原京子 (サンスター技研(株))

〈e-mail〉 cmyk7rgb6@gmail.com

景観条例から商店街の看板の色まで、幅広いテーマで研究活動をしています。

造園家の涌井史郎氏が提唱した「景観10年 風景100年 風土1000年」を知ったのはごく最近です。

2025年7月1日から9月30日まで、東京・紀尾井町の「紀尾井清堂」で開催された「建築家・内藤廣～なんでも手帳と思考のスケッチ in 紀尾井清堂」で見つけました。この展覧会では建築作品の写真や図面とともに、内藤氏が40年来愛用しているA5サイズの能率手帳のレプリカも展示されていました。その手帳の一ページにこの言葉がメモされていたのです。内藤氏がなぜこの言葉を手帳に書いたのかはわかりませんが、環境色彩に関心がある人間には、しっかりと張り付きました。

これまでの環境色彩研究会では、ここでいう「景観」と色彩が関心の中心です。「風景」と色彩や「風土」と色彩についても考えていく必要があるのではと思っています。具体的には試験的WEBミーティング(話題提供者によるプレゼンテーション+参加者による討論をZOOM上で行う), 見学会(昨年よりのテーマは『商店街を色彩で見る』, 研究発表会の3本柱でより実践的な環境色彩研究を目指しています)。

その後、ネットで検索して「景観十年 風景百年 風土千年」というタイトルの本があることもわかりました。参加してくださる方がいたら、皆でこの本を読む読書会を開催したいと思っています。